



岐阜大学機関リポジトリ

Gifu University Institutional Repository

Title	教師教育における「特別活動及び総合的な学習の時間の指導法」のカリキュラム開発研究(3)：学習成果物における「目標」の検討を通して
Author(s)	柴崎, 直人
Citation	[岐阜大学カリキュラム開発研究] vol.[36] no.[1] p.[1]-[8]
Issue Date	2020-02
Rights	
Version	岐阜大学教育学研究科
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12099/79451

この資料の著作権は、各資料の著者・学協会・出版社等に帰属します。

教師教育における「特別活動及び総合的な学習の時間の指導法」の カリキュラム開発研究（3）

—学習成果物における「目標」の検討を通して—

柴崎 直人^{*1}

特別活動と総合的な学習の時間について、2つの領域の学びを1つの活動として実施するアクティブラーニング型の授業のカリキュラムを開発して試行した。その結果、総合的な学習の時間においては6割弱、特別活動においては5割の班が、目標に関する理解が十分でないことが示された。特別活動が総合的な学習の時間のいずれか一方でも目標理解が得られている班が7割あった一方で、3割の班が双方の学習活動における「目標」の理解がいずれも不十分という結果であった。ここからは、これまで同程度の内容を設定していた特別活動と総合的な学習の時間の説明について、今後は従来に比して、総合的な学習の時間の目標についてより多くの時間を割き、より手厚く解説する必要が認められた。また、「目標」の理解が不十分の学生に対して「目標」と活動計画を結びつける説明や指示を意識して手厚く行う必要と、場所のテーマ性に引きずられないよう注意喚起を促す必要性が示された。

〈キーワード〉特別活動、総合的な学習の時間、アクティブラーニング型授業、遠足

はじめに

授業開発力の向上は、大学の教師教育における重要な使命の一つである。とくに特別活動と総合的な学習の時間（高等学校においては「総合的な探求の時間」：以下まとめて「総合的な学習の時間」とする）に関しては、検定教科書が用意されているわけでもないのに、教師の力量がそのまま問われてしまうとともに、教師自身によるたゆまぬ授業開発が必須の領域といえる。また、特別活動と総合的な学習の時間のいずれもが、児童生徒の実践を必須とする、「なすことによって学ぶ」形態を備えている。そのため、指導に際してのアクティブラーニング的な学習とその指導への理解が不可欠といえよう。

大学での教師教育におけるアクティブラーニング型授業の研究には、酒井（2018）による小学校社会科地理の研究、濱本（2017）による教育原理の授業に関する研究、藤井（2018）による教育制度論の授業に関する研究などがあるが、総合的な学習の時間にかかわるものは、高橋（2015）による、大学の参加型授業において育成すべき人間像と

総合的な学習の時間に関する研究が認められるのみであり、特別活動と総合的な学習の時間の関係性の視点から検討されたものは見られない。

岐阜大学においては、平成28年11月の教育職員免許法の改正に伴い、平成30年度教職課程認定基準の公表と教職課程コアカリキュラムの策定が行われ、授業科目「特別活動及び総合的な学習の時間の指導法」のカリキュラムが開発され、柴崎（2018）による報告がなされている。これは2単位という少ない単位数において効果的な教師教育を展開するため、学習指導要領にも明記されている、総合的な学習の時間における特別活動の読み替えのシステムを用いて、2つの領域の学びを1つの活動として実施するカリキュラムである。本稿ではその試行において得られた、アクティブラーニング型の授業の成果物を手掛かりとして、開発した授業の成果と課題を検討する。

1. 方法

(1)対象

*1 岐阜大学大学院教育学研究科

2018年度の岐阜大学教育学部3年生対象科目「特別活動と学級経営」の受講者。水曜1限126名・水曜2限各120名、計246名43班。

(2)実施時期および実施概要

2018年10月から2019年3月にかけて15回にかけて行われた「特別活動と学級経営」の授業内において、特別活動と総合的な学習の時間に関する講義を行ったのち、グループごとに特別活動の遠足計画と総合的な学習の時間の単元における学習指導案をグループによる話し合い活動を用いて作成させ、授業内での発表を行わせた。

(3)実施手続き

10月の開講後、まず講義として学級経営、特別活動及び総合的な学習の時間の位置づけ及び意義と役割、そして特別活動及び総合的な学習の時間の歴史と学級経営、について、2コマを用いて講義を行った。学級活動・ホームルーム活動、児童会・生徒会活動、クラブ活動・部活動、そして学校行事のそれぞれと総合的な学習の時間との関わりに関する意義と役割・指導法・指導実践事例についての講義を計4コマ行った。途中の11月には3年生の教育実習期で授業は実施せず、再開後の12月よりその後に総合的な学習と関連した学校行事の企画を5コマかけておこなわせた。その際、受講者を出席番号順に5～6人程度のグループに分け、中学2年生の特別活動における遠足の計画表と、その前提となる総合的な学習の時間における任意の単元の学習指導案を話し合い活動によって作成させ、1月末に提出させた。なお、この遠足は、総合的な学習の時間の単元における任意のある活動を、特別活動として読み替えるという設定であり、これは学習指導要領にも明記されている「総合的な学習の時間の実施による特別活動の代替」の措置を援用したものである。

その後、2月に全ての班の遠足の計画を受講生に配布し、各班からの報告(発表7分、講師による質疑8分)を聞かせながら、ワークシートに改善点等の指摘を記入させた。ワークシートは回収し、3月の最終回到講師からの講評をおこなった。

(4)学生作成資料の記載内容

特別活動における遠足の計画表の記載内容は次の通り

である。

①行事の名称、②目的地、③行事の目的、④教員役割分担、⑤日程、⑥ 教員の留意する点、⑦費用

なお、日程については、内容や移動手段等を詳細に書くよう指示した。また、費用は生徒一人あたりの金額を示すよう指示した。

総合的な学習の時間における任意の単元の学習指導案の記載内容は次の通りである。

1. 単元について

(1)単元名(テーマ)

(2)単元設定の理由(単元観・教材観・指導観など)

(3)単元の指導計画

①単元の目標・ねらい

②単元の指導計画・構想など

2. 本時について(遠足当日の活動)

(1)本時の目標・ねらい(総合的な学習の時間としての目標)

(2)本時の活動について(活動内容の説明)

(3)本時の展開(導入・展開・終末など)

特別活動における遠足の計画表及び総合的な学習の時間における任意の単元の学習指導案については、それぞれA4用紙1枚のシートを配付して記入させ、回収した。

(5)分析手続き

特別活動における遠足の計画表と、総合的な学習の時間における任意の単元の学習指導案それぞれにおける「目標(遠足計画では「目的」、以下「目標」として扱う)」に注目して分析の対象とし、そこに示される内容が学習指導要領に示される目標を反映しているか、その妥当性を検討した。具体的には遠足の計画表においては「③行事の目的」を、総合的な学習の学習指導案においては「①単元の目標・ねらい」を取り上げた。

それぞれの目標について、妥当性として○△×の三段階の評価を行い、分析の手掛かりとした。詳細は次の通りである。

○は適切な意で、学習活動のねらいを的確に理解し記述内容に表現されているもの。

△は不十分の意で、学習活動のねらいを完全には理解しておらず、記述内容の表現が十分に適切とは認められないもの。

×は不適切の意で、学習活動のねらいを理解していないと思われるもの。

これらの妥当性は、中学校学習指導要領に示される特別活動と総合的な学習の時間の「目標」の記載内容を指標として判定を行う。具体的には次の通りである。

(1) 特別活動

「第1 目標」及び「〔学校行事〕1 目標」を用いて、これらの達成を見込んでいると仮定される学習指導案の「目標」の記述内容について、その妥当性を検討する。

「第1 目標」

「集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。
- (2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見いだし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。
- (3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。」

「〔学校行事〕1 目標」

「全校又は学年の生徒で協力し、よりよい学校生活を築くための体験的な活動を通して、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養いながら、第1の目標に掲げる資質・能力を育成することを目指す。」

つまり、遠足計画の目標は、前提として自主的、実践的に取り組んだ集団活動において、さまざまな資質や能力の育成をめざすような目標になっていなくてはならず、とくに遠足という学校行事としては、生徒で協力する体験的な活動を通して、特に集団への所属感や連帯感を深めたり、公共の精神を養うことが、その記述内容に求められることになる。

(2) 総合的な学習の時間

「第1 目標」を用いて、この達成を見込んでいると仮定される中学校学習指導案の「目標」の記述内容について、その妥当性を検討する。

で、その妥当性を検討する。

「第1 目標」

「探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。
- (2) 実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。」

つまり、総合的な学習の時間における単元の学習指導案での目標には、「課題の解決」及びそれに向けた課題の設定、情報の収集、整理分析、まとめ・表現、振り返りなどが、その記述内容に求められることになる。

2. 結果

(1) 目標の妥当性について

総合的な学習の時間における単元の学習指導案での目標の妥当性については、○19、△4、×20であった。特別活動における遠足計画の目標の妥当性については、○21、△10、×12であった。

表1 目標の妥当性

	総合的な学習	特別活動
○	19	21
△	4	10
×	20	12

(2) 妥当性判定結果の組合わせについて

班ごとの総合的な学習の時間と特別活動の目標については、両方とも○であった班が9、○△が5、○×が17、△△が2、△×が5、××が5であった。

ちなみに○△5組のうち、総合的な学習の時間が○、特別活動が△の組合せの班は3、総合的な学習の時間が△、特別活動が○の班は2であった。

○×17組のうち、総合的な学習の時間が○、特別活動が×の組合せの班は7、総合的な学習の時間が×、特別活動が○の班は10であった。

△×5組のうち、総合的な学習の時間が△、特別活動が×の組合せの班は0、総合的な学習の時間が×、特別活動が△の班は5であった。

表2 判定結果組合わせ

○○	9
○△	5
○×	17
△△	2
△×	5
××	5

3. 考察

以上のように得られた目標の妥当性を基に、授業開発力向上に資する知見を得るための検討を行った。

(1)「目標」の理解に向けた改善

総合的な学習の時間の目標について、妥当性が「不十分」な班と「不適切」な班を「目標理解が不十分」としてその数を合計すると全体の56%となり、6割弱の班において総合的な学習の時間のねらいに関する理解が十分でないことが伺える。特別活動においては51%と、半数の班の理解が不十分であった。

その内訳として、総合的な学習の時間については、目標理解が不十分な24の班のうち、「△不十分」が4(17%)、「×不適切」が20(83%)だった。これに対して特別活動では、目標理解が不十分な22の班のうち、「△不十分」が10(45%)、「×不適切」が12(55%)だった。特別活動の「×不適切」55%よりも、総合的な学習の時間の「×不適切」83%の方が多いたことが伺える。

ここから、これまでは特別活動と総合的な学習の時間の説明について同程度の内容を設定していたが、今後は従来に比して、総合的な学習の時間の目標についてより多くの時間を割き、より手厚く解説する必要があると考えられる。

(2)妥当性判定結果の組合わせ結果から

全43班のうち、特別活動か総合的な学習の時間のいず

れか一方でも目標理解が得られている班が31で、そうでない班が12であった。7割の班が「目標」と学習活動の関係性を、何らかの形で理解できているとも考えられる一方で、3割の班が双方の学習活動における「目標」の理解がいずれも不十分という結果となっている。これらの層に関して、「目標」と活動計画を結びつける説明や指示を意識して手厚く行う必要があるだろう。

また、○×17組のうち、総合的な学習の時間が○、特別活動が×の組合せの班は7、総合的な学習の時間が×、特別活動が○の班は10であり、△×5組のうち、総合的な学習の時間が△、特別活動が×の組合せの班は0、総合的な学習の時間が×、特別活動が△の班は5であった。

これはつまり、特別活動より総合的な学習の時間の目標理解のほうが不十分であるという傾向を示しており、ここからも前述の結果である、「従来に比して、総合的な学習の時間の目標についてより多くの時間を割き、より手厚く解説する必要」が導かれることとなった。

(3)総合的な学習の時間の目標の記述内容から

①特別活動の目標との混同

総合的な学習の時間の目標に関する記述内容において、「×不十分」とされたものに特徴的にみられた傾向として、「特別活動の目標との混同」があった。「×不十分」20班のうち16もの班にその傾向がみられたが、たとえば次のようなものである。

単元名：「地域の伝統工芸に触れる」

目標：「地域の伝統工芸に触れる活動を通して、文化に親しむとともににより良い人間関係を築くなど、集団生活の在り方や公衆道徳などについての体験をすることができる。」

単元名：「歴史的建造物に親しもう」

目標：「遠足のスローガンや役割分担を工夫する話し合い活動の中で、集団決定したり、学究生活の向上のために自分の取り組みを自己決定したりすることを通して集団の一員としての意識を高め、互いに認め合える関係を築くとともに、自主的に活動することができる。」

単元名：「関ヶ原の歴史について知ろう」

目標：「教科書で学んだ岐阜にゆかりのある歴史について、各グループで興味や関心のある事柄について調べたり、実際に見たりする活動を通して、主体的に学ぶ態

度、協力して集団活動に取り組む姿勢を養う。」

単元名：「校外学習で明治村に行こう」

目標：「自然の中での集団宿泊活動などの平素と異なる生活環境にあつて、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、より良い人間関係を築くなどの集団生活の在り方や公衆道徳などについての体験を積むことができるようにすること。」

これらの目標は、総合的な学習の時間の目標である「課題の解決」が示されていない。課題の解決に向けた課題の設定、情報の収集、整理分析、まとめ・表現、振り返りなどのうち、情報の収集などの要素は含んでいるにせよ、それのみをもって総合的な学習の時間の目標として成立しているわけではない。上記の内容は、特別活動の遠足の目標のそれとほぼ同義であつて、総合的な学習の時間の目標と特別活動のそれとを混同している様子が伺える。例示のうち「校外学習で明治村に行こう」においては中学校学習指導要領における特別活動の学校行事に示される「旅行・集団宿泊的行事」の内容をそのまま引き写したものであつた。

②「特別の教科 道徳」の目標との混同

「×不十分」20班のうち2つの班には、「特別の教科 道徳」の目標との混同もみられた。次のようなものである。

単元名：「命のビザ～杉原千畝から学ぶ～」

目標：「杉原千畝に関して映像資料や記念館を訪問し学習する活動を通して、杉原の功績を単なる歴史的事象として捉えるのではなく、人間としての生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。」

単元名：「日本の伝統文化について知ろう」（ぎふ清流里山公園／旧昭和村）

目標：「日本の伝統文化の学習を通して、これまで受け継がれてきた日本の伝統文化のもつ価値を理解し、日本の伝統文化を大切にすることを養う。」

やはりここには「課題の解決」が示されていない。「遠足の目的地」の特性に引きずられてしまい、適切な目標設定を果たすことができなかつた様子が伺える。それぞれの土地が持つ特有のテーマに引きずられるのではなく、そこから生徒に課題を見つけさせ、解決させるための何らかの指導が必要であろう。このような、テーマ性の強い場所に関する注意喚起を促す必要があると考えられる。

(4)特別活動の目標の記述内容から

特別活動における遠足の目標に関する記述内容において、「×不十分」とされたものに特徴的にみられた傾向として、「社会科の目標との混同」があつた。「×不十分」12班のうち5つの班にその傾向がみられたが、たとえば次のようなものである。

目的地：「博物館明治村」

目標：「明治村での明治の生活体験や実際の明示の建物の見分学習によって、明治時代の文化や人々の暮らしぶりを実感し、現代や未来を考える上での参考とする。」

目的地：「リトルワールド」

目標：「世界の国の生活・文化に触れ、それぞれの国の良さを感じる。」

目的地：「トヨタ博物館」

目標：「自動車を作られるまでの流れや、自動車がいつから作られるようになり私たちの生活にどのように役立っているかについて理解する。」

目的地：「郡上八幡自然園 他」

目標：「自ら現地に赴き、その地域の特色を感じることを通して、観光地としての自然保護・歴史・地域住民のとりくみなどを多面的・多角的に学ぶこと。」

このように、遠足の目標を社会科のように示してしまう傾向は、これまで筆者が同様の授業を行ったすべての大学で見られている。授業中、遠足の計画に関する指導をする中で、遠足と社会科見学との違いについて必ず触れているにも関わらず、少なくない班がこのような「目標」を設定してしまう。

また、総合的な学習の時間の目標と同様に、「特別の教科 道徳」の目標との混同もみられた。次のようなものである。

目的地：「杉原千畝記念館」

目標：「自分も人として、杉原千畝を誇りに思い、自分も誰かのために何かしてあげられる人間の一人なんだと気づく。」

目的地：「ブルーメの丘」（農業・酪農公園）

目標：「自然と関わる活動を通して、命の大切さを学ぶとともに、自分たちの生活をより豊かにすることができる。」

道徳教育は学校におけるすべての学習活動に関与しているとはいえ、そこに特別活動としての、旅行・集団宿泊

の行事としてのねらいが含まれていなければ、それは遠足の目標としては不適切といえる。旅行・集団宿泊的行事としてのねらいがどこにあるのかを意識させる指導がより一層求められると考えられる。

おわりに

特別活動と総合的な学習の時間について、2つの領域の学びを1つの活動として実施するアクティブラーニング型の授業のカリキュラムを開発して試行した。その内容はグループごとに特別活動の遠足計画と総合的な学習の時間の単元における学習指導案を作成する学習活動を行わせるというものであり、そこで得られた学習成果物としての計画表と学習指導案からそれぞれ「目標」を抽出し、その記述内容を分析することで、開発した授業の課題と改善の方向性を検討した。

その結果、総合的な学習の時間においては6割弱、特別活動においては5割の班が、目標に関する理解が十分でないことが示された。特別活動か総合的な学習の時間のいずれか一方でも目標理解が得られている班が7割であった一方で、3割の班が双方の学習活動における「目標」の理解がいずれも不十分という結果であった。

ここから、これまで同程度の内容を設定していた特別活動と総合的な学習の時間の説明について、今後は従来に比して、総合的な学習の時間の目標についてより多くの時間を割き、より手厚く解説する必要が認められた。また、「目標」の理解が不十分の学生に対しては、「目標」と活動計画を結びつける説明や指示を意識して手厚く行う必要が併せて示された。

「目標」の記述内容の分析からは、総合的な学習の時間の目標に関する記述内容において、理解が不十分とされた班の8割に特別活動の目標との混同がみられた。また、「特別の教科 道徳」の目標との混同も複数の班でみられた。また、特別活動における遠足の目標に関する特徴的な記述内容の傾向として、「社会科の目標との混同」があり、理解が不十分とされた4割の班にその傾向がみられた。

また、総合的な学習の時間の目標と同様に「特別の教科 道徳」の目標との混同も複数の班でみられた。

ここから、「遠足の目的地」の特性に引きずられてしまい、適切な目標設定を果たすことができなかつた様子が示された。この状況の改善に向けては、それぞれの土地が持つ特有のテーマに引きずられるのではなく、そこから学習者自身に課題を見つけさせ、解決させるための何らかの指導が必要であろう。このような、テーマ性の強い場所に関する注意喚起を促す必要性が示された。あわせて旅行・集団宿泊的行事としてのねらいがどこにあるのかを意識させる指導がより一層求められることが指摘された。

今後の課題として、総合的な学習の時間及び特別活動の目標設定に関する指導において、他の教科・領域のそれと混同しないための指導の方法について検討を重ねたい。動の目標設定に関する指導において、他の教科・領域のそれと混同しないための指導の方法について検討を重ねたい。

引用文献

- 酒井喜八郎「景観からの社会科地理アクティブラーニング：教育系大学での小学校中学年の授業づくりへのアプローチ」地理教育研究 (22), 2018, pp. 50-55
- 柴崎直人「教師教育における「特別活動及び総合的な学習の時間の指導法」の授業開発(1)―関係機関の動向から見るシラバス策定の方向性―」, 岐阜大学教育学部研究報告. 教育実践研究・教師教育研究20, 2018, pp. 159-168
- 濱元伸彦「教職課程授業のアクティブ・ラーニング化にむけたペダゴジーの転換：『教育原理』における『学校論』の授業を事例に」, 教師教育研究 (30), 2017, pp. 117-125
- 藤井幹夫「教員養成課程におけるアクティブラーニング型授業がもたらす学習効果：教職に関する科目『教育制度論』における協同的で探究的な学習の結果から」ライフデザイン学紀要 (13), 2018, pp. 189-213
- 高橋美恵子「アクティブ・ラーニング」が機能する条件：―大学授業導入への教育方法的検討― 関東学院大学人文学会紀要 第133号, 2015, pp. 77-102

教師教育における「特別活動及び総合的な学習の時間の指導法」のキャリア開発研究(3)

一学習成果物における「目標」の検討を通して

付表 総合的な学習の時間の単元及び特別活動遠足計画の目標と妥当性		○適切 △不十分 ×不適切				
班	総合単元名	総合的な学習の時間学習指導案の「目標」記述内容	妥当性	特活目標地	特別活動「遠足計画」の「目標」記述内容	妥当性
1	伝えよう！日本！	日本文化について調べ、外国人旅行者に日本文化を伝えたり、それらの活動を振り返り発表したりすることを通して、文化に親しむとともに、集団生活の在り方や公衆道徳について理解し、学習活動の成果を活用できるように考えることができる。	△ 特活との混同あり	京都市街地	学校以外の公衆の場で節度を持って日常の学習を活かした活動をし、得た学びを日常生活のさらなる意識向上につなげる。	△
2	岐阜県の文化に触れよう	岐阜の伝統工芸を守る事の大切さに気付かせるために、伝統工芸の技術が現代の環境保全の取り組みに応用されていることを、岐阜県可児市の例をとって学び、実際に体験し、集団生活の在り方や公衆道徳について考えることができるようにする。	△ 特活との混同あり	ワクワク体験館(下切駅)	学年のみんなで「郊外に出て、可児市土田村について知り、江戸の文化に親しむとともに、施設の人と交流したり、公共交通機関のマナーについて学んだりしよう。	○
3	セルフプロデュース岐阜	岐阜市の紹介をすることで地域愛、課題を見つける。集団行動をする力をつける。課題解決方法を話し合う。	× 特活との混同あり	うかいミュージアム、岐阜市内色々	岐阜市の紹介をすることで地域愛、課題を見つける。集団行動をする力。課題解決方法を話し合う。(※総合的な学習の時間と同一)	△
4	これからの「未来」の話をしよう	過去と現在を比べる活動を通して、人々の生活の変化や人々の適応方法に気づき、来たるあらたな時代をどのように生きていべきか考えを持つことができる。	○	博物館明治村	明治村での明治の生活体験や実際の明示の建物の見分学習によって、明治時代の文化や人々の暮らしぶりを実感し、現代や未来を考える上での参考とする。	× 社会科の目標である
5	地域の伝統工芸に触れよう	地域の伝統工芸に触れる活動を通して、文化に親しむとともにより良い人間関係を築くなど、集団生活の在り方や公衆道徳などについての体験をすることができる。	× 特活との混同あり	美濃焼ミュージアム VOICE工房(陶芸体験)	公共交通機関を利用して、公衆道徳の実体験をすることも、岐阜県の伝統工芸品である美濃焼について学び、実際に体験する事を通して地域の文化に親しみを覚悟。	○
6	名古屋研修	名古屋の文化をクラスの生徒に伝えるための新聞を作るために研修の目標地やルートなど計画を立て、実行に移す活動を通して連帯感・所属感を感じ集団生活におけるきまりや公衆道徳を身につけることができる。	× 特活との混同あり	東山動物園、名古屋城等	名古屋の文化をクラスの生徒に伝えるための新聞を作るために研修の目標地やルートなど計画を立て、実行に移す活動を通して連帯感・所属感を感じ集団生活におけるきまりや公衆道徳を身につけることができる。(※総合的な学習の時間と同一)	○
7	身近な伝統文化ー川原町・鞆餅についてー	探求的学習の過程において、実社会や実生活の中から問いを見出し自分で課題を立て、課題解決に必要な知識や情報を集め、整理分類し、課題に対して主体的、協働的に取り組むことで積極的に社会に参画することができる。	○	長良川うかいミュージアム、川原町	・鞆餅や川原町など岐阜の自然や文化について体験的活動を通して集団行動の在り方や公衆道徳などの体験を積む。 ・川原町でのウォークラリーを通して話し合いや合意形成を図ったり意思決定したりできるようにする。	○
8	校外学習(河川環境楽園)	探求的な見方・考え方を働かせた学習の過程において、岐阜県の自然について問いを見出し、課題を立て、情報収集し、それをまとめることができる。	○	河川環境楽園	学級や班での合意を基にした遠足を通して、岐阜の自然の豊かさに気づき、より良い人間関係を築くことができる。	○
9	歴史的建造物に親しもう	遠足のスローガンや役割分担を工夫する話し合い活動の中で、集団決定したり、学習生活の向上のために自分の取り組みを自己決定したりすることを通して集団の一員としての意識を高め、互いに認め合える関係を築くとともに、自主的に活動することができる。	× 特活との混同あり	明治村	集団の一員としての自覚を持ち、明治村の歴史的に価値のある建造物に触れよう。	△
10	探ろう！地元よき。深めよう！仲間との絆。	岐阜の文化に関わる体験活動を通して、仲間と協力し、よりよい人間関係を築くとともに、自然や文化、伝統に興味を持ち、郷土愛を育み、よさを広めることができる。	× 特活との混同あり	高山	岐阜の文化に関わる体験活動を通して、歴史や伝統を学び、そのよさを広めることができる。	×
11	岐阜の足跡をたどろう	平素と異なる生活環境にあって見聞を広め、岐阜市の歴史や文化に親しむとともに、集団行動を通してよりよい人間関係を築くことができる。	× 特活との混同あり	岐阜歴史博物館、正法寺	岐阜市の歴史や文化にふれ、自ら学び考え、地域愛を大きく広げよう。	△
12	身近な建造物や古い町並み	実際の古い町並みや建造物を見て、教科書やテレビでは見つけられなかった新しい発見をし、それを通して地元と他県の街づくりの工夫を知る。	○	伊勢神宮	古い町並みから歴史に慣れ親しみ、集団で協力しながら時間通りに行動できる。	○
13	働く人の仕事と意思	・さまざまな職業があることを知る。・働く人の仕事への思いを知る・体験先で気を付けるべき礼儀・マナーを知る。・グループで声をかけ合いながら時間を守って行動する。・自分の役割を意識し、グループに貢献することができる。	× 特活との混同あり	中部国際空港	職業体験に向けて「働く人」の思いを知り、働くことへの興味・関心を高めることができる。	× 遠足の目標ではない
14	関ヶ原の歴史について知ろう	教科書で学んだ岐阜にゆかりのある歴史について、各グループで興味や関心のある事柄について調べたり、実際に見たりする活動を通して、主体的に学ぶ態度、協力して集団活動に取り組む姿勢を養う。	× 特活との混同あり	関ヶ原	岐阜にゆかりのある歴史に慣れ親しみ、集団活動を通して協調性を養う。	○
15	小さな世界旅行	様々な生活・文化についての調べ学習や体験学習を通して、それらの生活・文化の良さを感じることで、国際社会に対する広い視野の養成につなげる。	○	リトルワールド	世界の国の生活・文化に触れ、それぞれの国の良さを感じる。	× 社会科の目標である
16	命のビザ〜杉原千蔵から学ぶ〜	杉原千蔵に関して映像資料や記念館を訪問し学習する活動を通して、杉原の功績を単なる歴史的現象として捉えるのではなく、人間としての生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。	× 道徳の目標である	杉原千蔵記念館	「自分も人として、杉原千蔵を誇りに思い、自分も誰かのために何かしてあげられる人間の一入なんだ」と気づく。	× 道徳の目標である
17	「働く」ということ	実際に働く人々について調べ、話を聞く活動を通して、自分自身の進路や「働く」ということについて考え、働く時に大切なことや、これから自分がどう生活していけば良いか気づくことができる。	△	中部国際空港	空港で働く人々が何を大切にしているかに気付くとともに、公共の場でのマナーを守り、責任をもって行動することができる。	△
18	名古屋ミステリーツアー	電車に乗る際のマナーや路線図の使い方を実際に地下鉄を利用することで学ぶとともに、主体的・協働的に取り組もうとする態度を養う。	× 特活との混同あり	名古屋市内・名港水族館	集団活動に自主的・実践的に取り組み、互いの良さや可能性を発揮しながら仲間と協力する力を養う。	○
19	楽しもう！協力しよう！里山公園に向けて	事前学習での計画や当日の動きなどを考えることを通じて、仲間と協力したり自分の役割を責任をもって果たしたりすることができる。	× 特活との混同あり	ぎふ清流里山公園	仲間と協力することや公共のルールを守ることの大切さに気付くことができる。	○
20	大垣のこれからの考えよう	自己の興味・関心に基づき、課題を発見し、情報を集め、整理・分析する活動を通して、自分の良さを生かすとともに、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。	○	大垣城、奥の細道結びの地記念館、大垣駅周辺	大垣市の文化施設得を見学する活動を通して、地域の文化に親しみ、集団で協調し公衆道徳を守り行動することができる。	○

21	校外学習で明治村に行こう	自然の中での集団宿泊活動などの平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、より良い人間関係を築くなどの集団生活の在り方や公衆道徳などについての体験を積むことができるようにすること。	× 特活との混同あり	明治村	集団で行動する際の決まりや公共の場でのルールに注意し、明治時代の歴史や文化的背景を学ぶ。	△ 社会科の目標が含まれる
22	自動車作りのひみつを知ろう	トヨタ博物館を見に行く活動を通して、日本で有名な自動車会社が自動車を作るうえでの努力や工夫に気づき、日本の自動車づくりが盛んになった理由がわかる。	○	トヨタ博物館	自動車が作られるまでの流れや、自動車がいつから作られるようになり私たちの生活にどのように役立っているかについて理解する。	× 社会科の目標である
23	世界の様々な文化	世界の様々な文化について探求する活動を通して、個々や班ごとに協力しながら課題を解決することのよさに気づき、自ら課題を立て、体験的・実践的に情報を集め、それらを整理・表現し解決することができる。	○	リトルワールド	リトルワールドで課題解決に向けて班ごとに協力して調査する活動を通して公共の精神、連帯感の重要性に気づき、世界の衣食住について体験的・実践的に情報を集めることができる。	△
24	高山研修	班で高山について調べ、研修をする活動を通して、地元文化の良さや特色を知るとともに集団としての自分の役割を考え、今後の学校生活で手段の一員として協力的に活動することができる。	△	高山市	高山での班別研修を通して、集団活動に積極的に参加し、より良い人間関係を形成し、今後の学校生活で集団として協力的に活動できる力を育てる。	○
25	金華山を知ろう	多用な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。	× 特活との混同あり	金華山、岐阜公園	自然や文化に親しみながら集団生活の在り方や公衆道徳について学ぶ。	○
26	昭和の暮らしと伝統、歴史から考える今と未来	昭和の伝統や文化、自然や農工業についての探求的な学習を通して、昭和の伝統の良さやそれらの魅力を明らかにし、伝統の存続や課題の解決に向けて主体的に情報を収集し、それらを比較して考え、歴史と自分、そして未来の関わりを考察し、理解するともに、テーマに対する自らの根拠ある考えを、他者と交流する中で考えをより深めていく態度を養う。	○	ぎふ清流里山公園	実際に昭和の暮らしを観察、体験する活動を通して、自らの決めたテーマへの見方を広げるとともに、集団行動のあり方や公衆道徳について、協調的である態度をとることができる。	○
27	春の野外学習	自分たちが目標を設定し、野外学習での活動を通して得た知識や経験などをまとめ、表現することができる。また、探求的な学習に主体的に取り組む班で協力しながら活動することができる。	○	ブルーメの丘	自然と関わる活動を通して、命の大切さを学ぶとともに、自分たちの生活をより豊かにすることができる。	× 道徳の目標である
28	近代の文化探求	探求的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いの良さを生かしながら積極的に学年や学級、グループに参画しようとする態度を養うことができる。	○	博物館明治村	社会の一員としての自覚や責任を持ち、社会生活を営む上で必要なマナーやルールについて考えて行動するとともに、目標意識をもって課題解決学習をすること。	○
29	人生の滑走路	探求活動を通して、将来の職業選択の幅を広げるとともに、国際的な場で働く人々について知ることで、国際的な視野を養い、将来について見通しを持つことができるようにする。	○	中部国際空港	班での中部国際空港内の見学・体験を通して、職業観を醸成し、翌年の修学旅行での飛行機の利用について学ぶことができる。	△
30	命への感謝	貝の生態を知り、自然環境との関わりについて考える中で、課題を見いだし実行することができる。	○	奥田中潮干狩場	潮干狩り活動を通して、自然環境の大切さに気づき、清掃活動に意欲的に取り組むことができる。	×
31	日本の伝統文化について知ろう	日本の伝統文化の学習を通して、これまで受け継がれてきた日本の伝統文化のもつ価値を理解し、日本の伝統文化を大切にすることを養う。	× 道徳との混同あり	ぎふ清流里山公園	体験活動を通して自然や文化に親しみながら、普段と異なる生活環境でも集団生活の在り方を考えながら行動することができる。	○
32	世界の文化を知ろう	リトルワールドに行くことを通して、様々な国の暮らし、服装、生活の決まり、言葉など、それぞれの国の文化を知り、世界の人々と分かり合える方法を考えることができる。	○	リトルワールド	生徒で協力し、集団での所属感・連帯感を深め、公共の精神を養うとともに、世界の文化を知る。	○
33	日本の文化に親しもう	日本古来の文化に慣れ親しむと同時に、自ら情報を集め、主体的かつ協働的に探究することができる。	○	京都	・日本の文化に慣れ親しむ ・自ら学ぶ自主性を養う	×
34	日本の文化に親しもう	日本古来の文化に慣れ親しむと同時に、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、主体的かつ探求的に学ぶことができる。	○	犬山城、犬山市文化資料館	犬山城の歴史を班で学ぶ活動を通して、集団生活の在り方について体験を積むことができる。	○
35	東山動物園へ行こう！	社会科見学を通して、探究活動に主体的、創造的、協働的に取り組む態度を育て、職業選択など、これからの自己の生き方について考え、自らキャリア形成をしていくことができるようにする。	×	東山動物園	・動植物の観察 ・様々な職業について知り、職業選択の幅を広げる。	×
36	関ヶ原史跡巡り	身近な歴史的文化である関ヶ原について調べ、実際に見ることを通して集団行動の大切さに気づき、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成できる。	× 特活との混同あり	関ヶ原	地元の史跡をめぐることを通して、集団生活の大切さに気づき、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成できる。	○
37	世界の国々と日本	日本と世界の国々を比較することを通して、それぞれの国の共通点及び相違点に気づき、異文化理解を深めることができる。	○	リトルワールド	・異文化に対する理解を深めるために、明確な観点をもって体験・見学を行う ・社会のルール・マナーを守り、班で協力して、体験・見学を行う。	△
38	柳ヶ瀬町おこし計画	自分たちが住む地域について学び、地域に貢献する心を育てる。	×	柳ヶ瀬商店街	自分たちが住む地域について学び、社会参加意識の醸成や子どもたちの名前の動労観を形成する。また、活動を通して、集団や社会の中の一員として行動の仕方を考えることができる子どもを育てる。	○
39	マイアナザーワールドを見つけよう	主体的に探究課題について調べ、異文化に触れることで見識を広め、探求的学習のおよぶ理解することができる。	○	リトルワールド	事前学習で調べたことを目で見て確認し、新たな発見を通して自分が興味を持ったマイアナザーワールドをみつけるため。	×
40	日本の伝統文化に触れる	調べ学習を通して、日本の伝統文化の考えを深める。	×	東洋健康センター	・調べ活動と演劇を通し、日本の伝統文化に触れる。 ・集団活動を通して社会性を身につけ、社会的なマナーを身につける。	○
41	郡上八幡の観光地としての魅力を探ろう	学年の生徒で協力し、平素と異なる生活環境にあって見聞を広め、自然や文化に親しむとともに、より良い人間関係を築くなどの集団生活の在り方や公衆道徳などについての体験を積むことができるようにすること。	× 特活との混同あり	郡上八幡自然園他	自ら現地へ赴き、その地域の特色を感じることを通して、観光地としての自然保護・歴史・地域住民のとりくみなどを多面的・多角的に学ぶこと。	× 社会科の目標である
42	世界を旅する冒険家になろう	外国の衣食住の文化に触れ、日本の文化との違いに気づく。	○	リトルワールド	異文化を体験することで、日本の文化との違いに気づき、異文化を理解する心を養う。また集団として望ましい姿を仲間と考え、行動する力を養う。	○
43	近代国家への歩み	・集団行動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団生活の在り方を学び、協力してよりよい学校生活を築こうとする態度を育成する。 ・自然や文化を体感・体験することで、広い知見や豊かな感受性を身につけ各教科の学習を深める。	×	明治村	明治時代の建造物そのものを見学することを目標とし、集団行動を通して望ましい人間関係を形成する。	△